

会 議 録

会議の名称	登米市立小・中学校「学校再編に係る地域座談会」(迫地域)	
開催日時	令和元年 5月20日(月)	
	午後 7時 00分 開会	
	午後 8時 30分 閉会	
開催場所	迫公民館 2階 軽運動場	
教育委員会 出席者氏名	教育長	
	教育部長	
	教育部次長兼学校教育管理監	
	学校再編推進室長	
	学校再編推進室 学校再編推進係長	
	学校再編推進室 主事	
	学校再編推進室 主事	
参加者数	26名	
挨拶	事務局	開会 午後7時00分
	教育長	開会挨拶
説明	事務局	配布資料に沿って「登米市立小中学校等再編構想」及び「(仮称)学校統合準備委員会の設置」について説明
質問	事務局	意見交換・質疑応答
	出席者1	学校の児童数の推移を見ると少なくなっているというのは理解した。現在、各小中学校では特色ある学校作りをしている。その中で東和地域の生徒が新田の学校に通うなど、通学区域を無くしていくのも一つの方法ではないか。そういった点で再編を考えれば児童数の推移も変わってくるのではないか。
答弁	管理監	お話にあったとおり、それぞれの学校で校長先生のリーダーシップの下、保護者、地域と連携を図りながら魅力ある学校作りに取り組んでいる。そういった中で学区を見ると、現在でも申請があれば学区を越えて通学できるという現状はあるものの、学区選択制というご意見をいただいたが、登米市全体で児童数が減少している中で、そういった取り組みだけで児童数・生徒数を改善するには厳しいという認識である。
質問	出席者1	義務教育学校を設置しているところがあるが、そういった方向性は考えていないのか。
答弁	管理監	これまで保護者、地域の意見を伺って再編構想を策定する中で小中一貫校の考え方は無いのかというご意見はいただいていた。登米市として中学校の在り方について、本構想で示している「児童・生徒が多様な考えに触れ、切磋琢磨することで、社会の形成者としての基本的資質を伸ばす」を目標として考えた時に、小中一貫校であれ義務教育学校であれ、中学校の部分の人数としては部活動等で生徒の活動に制約があるため、単学級の中学校を残すための小中一貫校、義務教育学校は考えていない

質問	出席者 1	<p>状況である。</p> <p>新田の小中学校は廊下で繋がっているものの、そこに勤務している先生が自分は中学校の先生だ、小学校の先生だと疑問を持っている形ではだめだと思う。登米市もやってやろうじゃないかという大きい気持ちを持って取り組んでいくことが大切ではないか。そういう学校ができたから児童生徒を入れたいと考えようになれば再編の話も変わってくるのではないか。</p>
答弁	室長	<p>迫地域については後期計画に位置付けている。色々な事を検討する時間があるので、頂いた意見を参考にしながらより良い環境づくりを目指して行きたい。一つの選択肢として考えていく事は可能なので色々な意見を頂きながら検討したい。</p>
質問	出席者 2	<p>各学校がコミュニティスクールに指定され、地域ぐるみの特色ある学校作り、子供達を育てようと一生懸命取り組んでいる。その様な中で再編の話が出てくると水を差されたような気になる。学校の建築経過年数が記載してあるが、教育というものは財政とか建築とかそういったものに左右されずに受けられるというのが教育基本法の趣旨だと思う。学校の新築、改築に併せることなく、本当に必要なことを考えて欲しい。「耐用年数が経過するので建て替えるのであれば統合しましょう。」という発想にも見受けられる。児童数の推移をみると仕方がないとの思いもある。</p>
答弁	室長	<p>今年の4月から市内全ての小中学校でコミュニティスクールが立ち上がり、地域と学校をとりもっていただき、特色ある教育環境づくりにご協力いただいていることに感謝を申し上げます。立ち上がったばかりで別な所に行ってしまうとよく分からなくなるという気持ちも重々承知している。ただ、仮に統合した場合でも地域の特色というのは引き継がれていくものだと考えている。地域の協力無くして学校は運営できないと考えているので、再編の話が進んだ後もご協力いただければと考えている。</p> <p>二点目の児童数の減少と建物の経過年数だけで決めるのはいかがなものかという点についてはその通りである。ただ教育委員会では基本として一定程度の児童数の中で子供達を生活させて、切磋琢磨しながら大人になって貰いたいと考えており、一定数以上の学級規模の確保を目指している。校舎についても北方小学校は建築から50年近く経過し老朽化が見られる。65年を基準とした場合に残りの10数年で何らかの対策を取らなければならないということがある。出来る限り現在の校舎を使っていきたいという思いはあるが、その後のことも考えていかなければならないということで示させていただいている。</p>
意見	出席者 2	<p>再編ありきではなく、地域の理解を得た上で進めて欲しい。</p>
質問	出席者 1	<p>小さい学校を大きい学校に統合するという形が多いように思う。大きい学校に行くと統合した学校で新しい学校を作っていこうと考えても、大きい学校のシステムで動いてしまう部分があると聞く。また、指導の</p>

答弁	室長	<p>問題も出てくるので大変だという話も聞く。新しい校舎を作ってそこに統合すると新しい学校を作っていくという気持ちも芽生えるのでないか。</p> <p>確かに大きい学校と小さい学校統合すると大きい学校に倣ってしまうケースも出てくる可能性がある。構想では対等であれ吸収のような形であれ新しい学校を作っていくことを基本としている。統合する学校同士対等に意見を出し合い良いものを作っていくという形で進めて行きたい。</p>
質問	出席者 3	<p>説明の中で新しい学校を作っていくとの話があり、趣旨は理解した。ただ座談会に参加して若い方の出席者が少ないのが気になる。学校再編を進めるにあたっては若い方の意見を最大限に汲み取っていただきたい。座談会を開催するにあたってどういった広報をしたのかは分からないが、周知の仕方にもうひと工夫していただきたいと思う。</p>
答弁	室長	<p>座談会の周知については4月下旬に各戸一軒一軒に案内を配布しているが、中々伝わっていないという現状がある。学校を通して配布するなど色々な手法があると思うが、お互いに情報を共有できるような形で進めて行きたい。</p>
質問	出席者 4	<p>地域として学校が無くなり子供達の姿が見えなくなるのが寂しいということは分かるが、学校再編に関する今までの経緯が分からないので保護者の意見はどうなっているのか。アンケート結果を教えてください。</p>
答弁	室長	<p>昨年の10月に小中学校、未就学児の保護者を対象にアンケート調査を行い、8割近い回答を頂いた。意見の中では統合ありきの質問ではないかとのお叱りもあったが、設問としては統合後の校舎活用、配慮事項、通学支援の三つを大きな設問として調査を行った。全体的には再編に賛成の意見が多かったが、地域、保護者の意見を聞きながら進めて欲しいとの回答も少なくなかったので、そういった部分には配慮しながら進めて行く。この場で一つ一つの設問について説明するのは難しいが、例えば配慮事項については「登下校時の安全確保」、「いじめ・不登校への対応」、「多様な学習指導体制の確保」等の要望が多かった。地域毎に意見が異なる部分もあるので配慮して進めて行きたい。アンケートの詳細については市のホームページで公開しているので、そちらをご覧ください。</p>
質問	出席者 3	<p>アンケートの話があったが、地域毎に再編に対する考え方に温度差は有ったか。また、アンケート結果については(仮称)学校統合準備委員会(以下「統合準備委員会」とする。)の中では結果を提示して進めていただけなのか。</p>
答弁	室長	<p>手元に地域毎の資料は無いが、未就学児、小学校、中学校等階層別に分析したデータがあるので分かりやすく公表していきたい。また、統合準備委員会が立ち上がった際にはそれらを見ていただいて進めて行きたい。</p>

質問	出席者 4	<p>少子化が進んでいるので統合というのは時代の流れだと思う。校舎を新しく建てるとなった場合、広大な敷地、莫大な資金が必要だと思う。他の地域でも統合の話があると思うが、予算化はされているのか。</p>
答弁	室長	<p>校舎の整備については基本的には既存の校舎を活用し、老朽化が進み使用できない校舎については解体を考えている。新校舎については財政面から考えると全て新築にするのは難しい状況である。その中で最低限の施設については将来的な児童数の見通し等を考えながら整備が必要だと考えている。整備をする際には市の単独予算では不可能なので補助金等を活用していきたい。</p>
質問	出席者 5	<p>佐沼小学校では5年前に森小学校との統合があった。その中で地域の方の反対が強く進まなかった部分もあったが、児童に関しては統合して良かったという話が多いと聞いている。地域の方で学校が無くなってうれしいという方はいないと思うので、何故学校再編が必要なのか、何故その様に進めるのかなど、理由の部分を意見交換の材料として示して欲しい。アンケートでは統合に賛成の方が多いと思うが、賛成の方がこういった場に来て表立って発言するのは難しいと思うし、また年代によっても意見が異なると思うので広く意見を拾って欲しい。</p>
答弁	室長	<p>座談会に参加していただけるのも一部ということでアンケート調査を実施した。8割以上の方から回答をいただき、自由記述欄も含め様々な意見を頂いたので、それらの意見をしっかり踏まえたい。迫地域については後期計画になるが、進める際にはお互いに意見を出し合える場を作っていきたい。</p>
質問	出席者 1	<p>お金が無いから小規模校をなくすという考えがあるのではないか。小中学校を統合することは慎重に考えて欲しい。アンケートも自分達が進めやすいように設問を作ればいいようになる。アンケートの取り方も慎重にやって欲しい。小さい学校を維持していくのが大変だという考えがあるのであるのではないか。地域づくりが大切なのであれば、学校は地域の拠り所なので複式学級だろうとなんだろうと残してほしい。</p>
答弁	室長	<p>教育環境を充実させることを目標として再編を進めている。学校が地域の拠り所だというのは重々理解しているので、それらを残しながら地域づくりにも取り組んでいきたい。</p>
答弁	部長	<p>貴重なご意見を頂いた。室長から答弁があったとおりお金が無いからというのが第一ではない。学校が、子供達が力を付けて社会へ巣立っていく場所であると同時に地域の拠り所であるということについては皆さんから頂戴した意見のとおりである。少人数の学校を訪問し、教室を見た時に自分達の時代と比べ児童数が減少している現状にショックを受けた。その子達が6年間何の問題もなく成長してくれれば良いが、人間関係がうまくいかない時にクラス替えができないと行く場所が無くなる。この中で子供達を育てていくのは危機的な状況だということで、単学級、複式学級を回避することを目標に取り組んでいる。その中で優先順位を付け迫は後期になっているので、じっくりと考えることは出来</p>

		<p>るが、前期の学校については限界に来ている状況だ。この社会の中で力強く、自分の学力、力を持って生き抜いて欲しいという思いで、再編を進めて行きたい。</p>
意見	出席者 6	<p>初めて座談会に参加して皆さん色々な思いがあると感じた。時代の流れで再編をしなければならないと感じた部分もあるが、子供達が幸せに学んでいくためにはどうしたら良いのか考えて、座談会にももっと多くの方が参加していただいて、お互いに歩み寄って意見を交換できたらと思う。</p>
挨拶	教育長	挨拶
	事務局	最後に改めて意見、質問はあるか。
意見	出席者 5	<p>最後に一点だけ。複式学級でも良いという意見があったが、保護者の立場からは複式学級は問題があるという認識である。何が問題なのかという部分をもっと示していただければ理解が進むと思う。</p>
答弁	室長	<p>複式学級については教育委員会でも課題があると考えており、複式学級の解消の優先順位を高くしている。メリット、デメリットについては改めて説明していきたいと考えているし、情報を提供していきたい。</p>
質問	出席者 6	<p>小中高と佐沼に通ったが、高校で小規模校出身の人と一緒にあった時にその地域の人達はつながりが強いように感じ、うらやましく思ったのを覚えている。10人に満たないような学校だと課題もあると感じるが、大きい学校、小さい学校それぞれに良さがあると思うので統合して無くしてしまうのはどうなのかという思いがある。また、座談会に参加している方が少ないと感じる。若い人達は広報を見ない方もいるし、ホームページもよほど興味のある方ではないと見ないので情報発信の方法に工夫をしていただければと思う。</p>
答弁	室長	<p>教育委員会として情報発信が足りていないというのは感じている。迫地域が3ヵ所目の座談会になるが、他の地域でも情報発信に工夫が欲しいというご意見は頂いている。今後の情報発信の手法についてはより良い方法を検討して行きたい。</p>
答弁	教育長	<p>大きい学校が良い悪い、小さい学校が良い悪いという考え方ではないことはご理解頂きたい。それぞれにメリット、デメリットがある中で適正規模がどのようなものなのかという考え方を提示している。その中でどの様に進めたら良いか合意形成を図るためにどんどん意見を頂ければと思っている。</p>
	事務局	閉会 午後8時30分